

カウンセリングのお作法 第二十一回

CONカウンセリングオフィス中島 中島水鳥 弘美



「発達障害かもしれない」への対応

発達障害か？

カウンセリングに来られた方から、

「うちの子どもは発達障害なのでしょうか」と、たずねられることが多くなりました。

とくに初めて来所されたご家族からの質問が頻繁にあります。ここ、五、六年の傾向です。

そのようなときは、何を確認したいと思っているのか、背景にあるものを想像しながら、丁寧に家族の思いを把握します。

慎重に対応する必要があるのは、発達障害という言葉は、使う人によってとらえ方に幅があるからです。

どのような意味で使っているのか

よくある誤解として、発達障害とは、発達がゆっくり成長していく状態、人としての発達が未熟で幼いと思われていることがあります。

さらに、知的に障害があると思われている場合もあります。

また、育て方や生活環境等が良くなかったために、発達障害という困った状態に陥ったと思っている人もいます。

納得したい家族

相談過程のなかで、カウンセラーに対して話しやすい、たずねやすいという気持ちになると、それまでに蓄積された疑問が湧き出てきます。

最近、よく取り上げられている発達障害は、

うちの子どもにあてはまるのか、そうではないのか、白黒つけて安心したいと家族は感じているようです。

発達障害ということばが多くの人に届くようになった一方で、発達障害に関しての理解はまちまちで、話がかみ合わないこともあります。どういった情報をもとに発達障害と判断しているのか非常につかみにくいため、

「たとえば、どんなところからそう思われますか」

と、家族が気にしていることを受けとめつつ、詳細を聴かせてもらい、何をまず優先事項として取り組むべきかを見極めをします。

うちの子発達障害かも



思い当たるところはたくさんあるわ



行動に問題があるのか

発達障害なのか

本当に障害だったらどうしよう

発達障害の理解がすすむ

一方 誤解も広がった



発達障害かもしれない」への対応

困っている内容を明らかにする

自己判断

「ご家族からだけでなく、

「私は発達障害だと思います」

と、ご本人自ら、話されることもあります。

「チェックリストの項目が、ほとんどあてはまるのです」

自己判断です。

発達障害であることに、肯定や賛同を求めているのか、否定を期待しているのだろうか、それとも、。

「私は発達障害だから、仕事ができません。もの覚えも悪いし、集中できない」

いま困っている状態の根源は、発達障害によるものだという筋書きができあがっている。

どう困っているのか

ここからがメインです。

どのようなことが最も困っていて、解決したいと思っている点はどこにあるのかに絞って、これまでのしんどさの思いを受けとめつつ、話に耳を傾けます。

「自分に適した仕事を見つけて、収入を得て、自立したいと思っても、だめです。ミスを繰り返して、上司から叱られます。信頼を得られないために、居心地が悪くなり、気を遣いすぎてくたびれます。そのうち、仲間はずれになるので、仕事を休む。それを続けていると、結局、職場をやめざるを得なくなってしまうのです」

どのようなことに苦痛に感じているのか、話してもらうことで、その情報をカウンセリングの場で、共有化していきます。

この過程がとても大切な作業となります。

自信を回復

仕事が続かないことで、自信をなくしつつある状態が長く続くと、さらに停滞してうつ状態になる可能性があります。

適した仕事を見つけて、自立したいというクライアントの思いから、どう未来につなげていくか、今後焦点をあてながら支援していくことになります。

出勤できない 仕事が続かない



私は発達障害だ！

だから働くことができないんだ



**何に困っているのか
最も困っていることは何か
明確にする**



発達障害かもしれない」への対応

地域の支援制度を利用する

明確な診断が必要な場合

カウンセラーは、カウンセリングの場面において、発達障害かどうかを判断する立場にはないため、適切な診断を必要としている場合は、医療機関で医師による受診が必要となります。ご家族が発達障害であると感じていて詳細をお聴きする中で、やはり発達障害の可能性が明らかな場合は、医療機関への受診をおすすめします。ご本人が自覚されている場合も同様です。

障害を受けとめる準備

しかし、その可能性がある場合、医療機関を

訪れるまでもうひとつ、準備が必要です。

実際に発達障害であると医師から言われたら、今後の不安とともに障害を受けとめられるかどうか次の課題になります。

検査によって何が得意で何が不得意なのかの特徴を把握することで、今後の生活に役立つことが多く、はつきりして、安心したという人いれば、障害があることが就職に不利になるのではないかと将来を案じることもつなぐります。

具体的な支援制度は何があるのかを知る

医療機関による診断があることで、その後、さまざまな支援を利用することができます。

子どもの療育だけでなく、親が子どものように接していくかのトレーニングについても支援があり、地域で支える制度が整っています。さらに大きな特徴は、就職するまでの制度が整っていることです。

それぞれの得意分野をいかした就職先の紹介や、仕事につくまでの研修受講などの制度も準備されているのが大きな特徴となっています。

発達障害へのさまざまなサポートが準備されていることを知った上で、医療機関を訪れると、その後どのような行動をすれば良いかがわかります。

明確な診断が必要な場合



医療機関を受診



CON 子さん 心理カウンセラー

人はなかなか専門機関に行けない

診断を受けとめる準備が必要

各地域の発達障害者支援センター

さまざまな支援が用意されています！

子どもへの支援 療育



就職相談紹介

仕事につなげるための研修講座